

博士課程教育リーディングプログラム 平成28年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
機関名	東京大学	全体責任者（学長）	五神 真
類型	複合領域型（物質）	プログラム責任者	小関 敏彦
整理番号	J01	プログラムコーディネーター	川崎 雅司
プログラム名称	統合物質科学リーダー養成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

物質科学の持つ「総合性・俯瞰性・革新性」を新たな大学院教育の軸とし、博士前期後期課程の一貫コースを構築する。大学院教育における深い専門性を養成するコースワークと学位論文研究による博士学位取得に加え、本プログラムにおいて、物質科学関連における異分野の学術や、基礎から産業応用に渡る領域の俯瞰力を養成する。さらに、産官学のトップ人材による特別講義、コース生によるコロキウム、インターンシップ、長期海外派遣、自発融合研究などの施策を通して、異分野や異境とのコミュニケーション能力、先端的な課題にチャレンジしつつ基本原理に立ち戻れる柔軟性、問題を細部にわたって分析・解決する能力と組織を統率する広い視野を合わせ持ち、高い倫理性をもって世界を舞台に活躍するリーダー人材を育成することを目的としている。これらは、「東京大学ビジョン2020：知の協創の世界拠点」を目指す東京大学の改革構想と合致する。

2. プログラムの進捗状況

本年度は以下の施策を実施した。①異分野学生による自発融合研究の推進のため、既導入の研究用備品の付属品を購入して共通実験室に設置し、4件の自発融合研究を実施した。②円滑なプログラム運用のため、特任教員と教育・事務支援員の雇用を継続した。③プログラムへ専念させるため、修士課程1年次から41名のコース生（6期生）を選抜して奨励金を支給し、前年度までに選抜した学生110名には支給を継続した。④国際的コミュニケーション能力の養成のため、22名の海外研修、1名の海外武者修行と13名の長期海外派遣を実施した。⑤俯瞰力の養成のため、13名の長期インターンシップを実施した。また、統合物質科学俯瞰講義、統合物質科学コースワーク、コロキウム1、2、特別講義、MERITセミナーを前年度に引き続き実施した。⑥長期海外派遣や長期インターンシップの実施報告書をWEB掲載し、後続のコース生への指針として活用した。⑦平成27年度の間評価結果に基づき担当委員による現地視察が実施され、指摘事項に従ってプログラムの改善を図った。⑧アウトリーチ用の本格的なパンフレットを作成し、本プログラム活動等の広報を行った。

（機関名：東京大学 類型（領域）：複合領域型（物質） プログラム名称：統合物質科学リーダー養成プログラム）